

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土東小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	学校全体としては、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れているが、個人差があることから個別に必要な支援を講じていく必要がある。「ドリルパーク」等のICT機器を積極的に活用し、一人ひとりの蓄積されたデータを効果的に指導に活かしていきたい。また、「主語・述語の理解」「目的に応じて適切に文章を読み取る」こと、算数では、「複数の数量から必要な数量を選んで立式する」ことについて、昨年度に続き課題が見られる。令和7年度も全学年において、授業を中心に重点的に取り組み、令和7年度のさいたま市学習状況調査の結果において、取組の成果を検証していきたい。
思考・判断・表現	各教科等における「思考力、判断力、表現力等」に係る指導内容を明確化するとともに、授業において意図的、計画的に協働的な学びを通して考えたり、表現したりできるようにする。また、根拠となる部分を引用して自分の考えを具体的に書くことに課題がみられたため、カリキュラムマネジメントの視点から、根拠となる資料を基に、自己の考えをまとめる活動を引き続き重視していきたい。

	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p><学習上の課題> 国語科において、「主語・述語の理解」「目的に応じて適切に文章を読み取る」ことに課題が見られる。</p> <p><学習上の課題> 算数科において、「複数の数量から必要な数量を選んで立式すること」に課題が見られる。</p>	⇒ ICTの効果的な活用により、レディネス問題や適用問題を通して児童が何をどれだけ理解しているかを教師が把握するとともに、理解度に合った問題に取り組む機会を設けることで、児童に必要な個別最適な学びを実現できるようにする。【さいたま市学習状況調査の平均正答率の比較(前年度比)】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 身に付けた知識や理解していることを、場面や目的に応じて活用することに課題が見られる。</p> <p><指導上の課題> 思考を要する問題や自らの考えを文章等で表現する課題において、粘り強く問題や課題に取り組むことに課題が見られる。</p>	⇒ 学習活動の中で、児童が主体的に判断し、思考・表現する場面を確実に位置付ける。また、タブレット等のICTを活用しながら、獲得した知識を基に議論や発表を行ったり、クラウドを基盤とした協働学習を実施したりすることを通して、児童の思考力・表現力の向上、児童の学びに対する意欲の向上を図っていく。【さいたま市学習状況調査の平均正答率の比較(前年度比)、学習成果物、学びの指標アンケート】

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	授業では紙媒体のドリルの活用とともに、個別に一人ひとりの児童がドリルパーク等のタブレットを活用した課題に取り組むことができていた。どの学年においても、漢字や計算問題等に対し主体的に学習に取り組む態度が定着しつつある。また、家庭においても、タブレットを用いて漢字や計算問題に主体的に取り組むことができていた児童もいる。学年別集計における同集団経年比較から、知識・技能の数値がどの学年も昨年度からプラス1ポイント程度向上している。
思考・判断・表現	B	自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができるようにするため、表やグラフの特徴を、言葉を用いて表現する活動に重点的に取り組むことができた。タブレットを活用しながら、自分の思いや考えを伝え合うなどの協働的な学習活動ができた。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達と意見を交換する場面、タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が市平均を大きく上回っており、取組の成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	算数の「除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる」問題において課題が見られた。解答類型を見てみると、計算の際に位取りを誤っている児童、無解答の児童が比較的多く見られた。位の処理、あるいは位取りの方法に対する理解が不十分であると考えられる。一方で「算数の授業の内容はよく分かりますか」という質問において、肯定的な回答は86.8%であった。日常の算数の授業において児童が「分かる」授業が展開されている様子が窺える。そのため、今後も継続して計算ドリルやタブレットでの習熟問題に取り組む、既習事項の定着を図っていくことが重要であると考えられる。
思考・判断・表現	算数の「図形」領域、特に「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。解答類型を見てみると、「一辺×一辺×一辺」と「一辺×3」を混同している児童、無解答の児童が比較的多く見受けられ、公式の意味の理解(1cmがいくつ分)が不十分であることが示唆された。児童質問「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」では、肯定的な回答が93.6%であったため、今後さらに児童が熟考する場面を増やしたり、自分の考えを他者の考えを聞きアップデートさせる機会を多く設けたりすることで児童の思考の質が高まっていくであろうと考える。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語における「文中の主語と述語の関係を理解することができる」の問題において、課題が見られた。昨年度からの課題としていたが、文章を適切に読み取ることが引き続きの課題として明確となった。また、「当該学年の前の学年年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができる」の問題において、4年生と6年生は無回答が見られた。算数における「小数の減法の問題」において、課題が見られた。商やあまりの意味を確実に理解できていないと考えられる。計算の方法とともに、一人ひとりが意味を考える活動に十分な時間を費やして取り組めるような工夫をした授業を実践する。
思考・判断・表現	国語では、「話し手の意図をとらえながら聞き、効果的に助言することができる」の問題において課題が見られた。話し合う活動において、視点を明確にして児童がお互いに伝え合う活動に取り組めるようにする必要があると考えられる。算数では、「データの活用」の問題において、課題が見られた。グラフに表されている内容を適切に読み取ることが十分にできていない。データの表す意味を確実に理解して、その内容をしっかりと読み取って比較するなどの考察し話し合う活動が不足していると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業内や自宅学習等を通して、児童の基礎的・基本的な知識・技能の向上を確実に図ることができた。ICT機器を活用して児童の理解度を把握することについては、さらに取組を推し進めていく必要がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	本校は、タブレット端末などの機器を活用しながら協働的な学びを進めていく機会を多く作ることができている。今後も、ICT機器の使用を目的とするのではなく、児童の思考力や表現力の育成のために端末の効果的な活用を続けていきたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)